



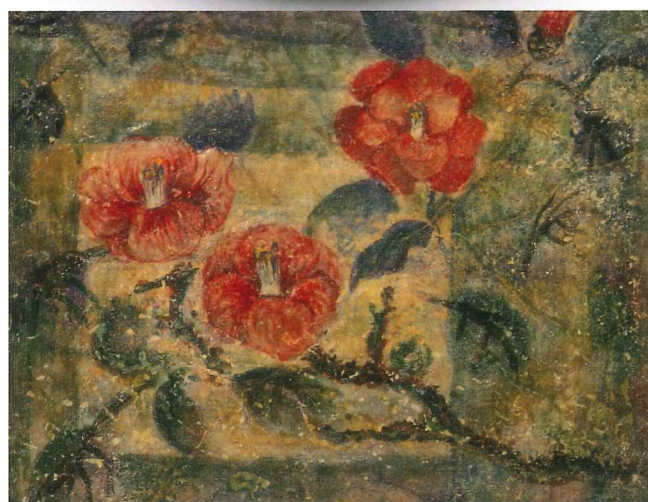
2



1



3



4



5



6



7



8

向日市立図書館・向日市文化資料館特別展

「渡邊武と文人たち」

令和6年(2024)

11月2日(土)

~11月17日(日)

■開催時間 午前10時から午後6時

■休館日 月曜日

※ただし11月4日は開館、
11月5日は休館

■会場 向日市立図書館 入館無料

1: 棟方志功椿絵書筒 (渡邊武コレクション) 向日市立図書館蔵
2: 勅使河原蒼風 椿 (渡邊武コレクション) 向日市立図書館蔵
3: 加藤土師萌 色絵椿花文鉢 (渡邊武コレクション) 向日市立図書館蔵
4: 絹谷幸二 椿 (渡邊武コレクション) 向日市立図書館蔵

5: 荒川豊蔵 赤絵椿の絵酒盃 (渡邊武コレクション) 向日市立図書館蔵
6: 河合卯之助 向日窯椿文皿 (渡邊武コレクション) 向日市立図書館蔵
7: 堀井香坡 椿と壺 (渡邊武コレクション) 向日市立図書館蔵
8: 古九谷椿絵皿 (渡邊武コレクション) 向日市立図書館蔵

「渡邊武と文人たち」

向日市に居を構えた薬学博士の渡邊武氏は、椿の研究に情熱を注ぎ、約50年をかけて収集した椿をモチーフにしたコレクションは書画、陶磁器などの美術品をはじめ民芸品、玩具などあらゆるものにおよびます。

このコレクションの中には、薬と椿を通じて知り合った各界著名人から贈られたものも多くあります。図書館所蔵の美術工芸品と文化資料館所蔵の渡邊家資料を文人たちとの交流のエピソードとともに紹介する特別展を開催します。

日曜談話会

「陶芸家・河合卯之助の横顔」

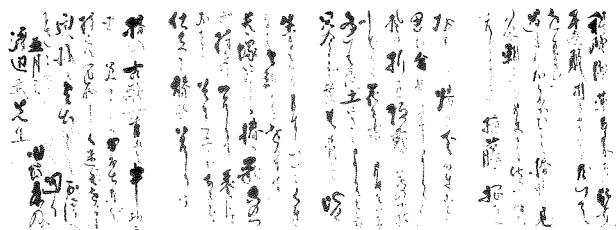
昭和初期に向日町に來住して窯を開き、独自の作陶活動をした陶芸家・河合卯之助に焦点をあて、文化資料館職員が調査したことを紹介します。

日時：11月17日（日）午後2時～3時30分

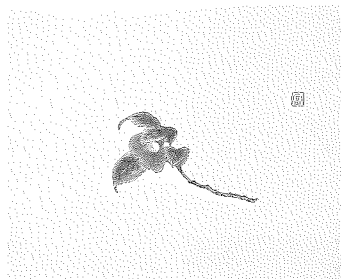
会場：向日市文化資料館 2階研修室

定員：40人

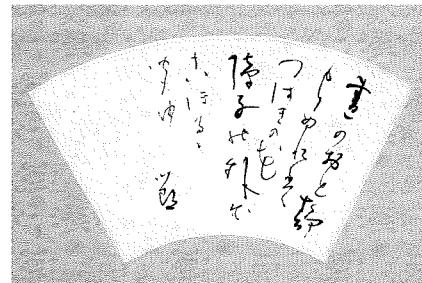
申込：直接または電話で文化資料館（931-1182、開館日の午前10時～午後6時）へ。定員になり次第締め切り。



川端康成書簡（渡邊武コレクション）向日市立図書館蔵



富本憲古 紅椿
（渡邊武コレクション）向日市立図書館蔵



長塚節 椿の歌
（渡邊武コレクション）向日市立図書館蔵



陶芸以外にも多彩な才能を発揮した河合の周囲には吉川英治や富本憲吉など多くの文人・工芸家らが集い、向日町の河合邸はさながら文化サロンのようであったといえます。

河合卯之助は京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校を卒業後、しばらくは陶工であった父に学び、家業を手伝っていましたが、一方で版画集や木彫、デザイン、西陣織の図案も多く手がけていました。

朝鮮の古窯跡を訪ねて感銘を受け、色絵の技法を習得したのち、向日町に向日窯を開き、独自の作陶活動に入りました。

河合卯之助

（1889～1969）



薬学博士の渡邊武は、東京帝国大学医学部で薬学を修めた後、（株）武田薬品研究所に勤務、その在職中から正倉院薬物・香薬調査を委嘱され、退職後には、日中医薬研究会会長、日本漢方交流会顧問などを歴任し、伝統医薬学の発展および薬学を通じた日中の交流、友好に力を尽くしました。

また、椿の研究に情熱を注ぎ、日本各地の椿の原生地、巨椿、銘椿を訪ねています。約五十年かけて収集した椿のコレクションは、椿をモチーフにした書画・陶磁器・染織などの美術品のほか、椿材で作られた民芸品・茶道具・玩具類、椿に関する書籍や葉書などあらゆるものにおよびます。

平成6年（1994）に椿に関する美術工芸品のうち約千五百点を向日市に寄贈、向日市立図書館の渡邊武コレクションとなりました。

渡邊武

（1913～2004）

向日市立図書館

〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-1
電話 075-931-1181
<https://www.city.muko.kyoto.jp/kurashi/tosyokan/>

向日市文化資料館

〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-1
電話 075-931-1182 FAX 075-931-1121
<https://www.city.muko.kyoto.jp/kurashi/bunka/>

